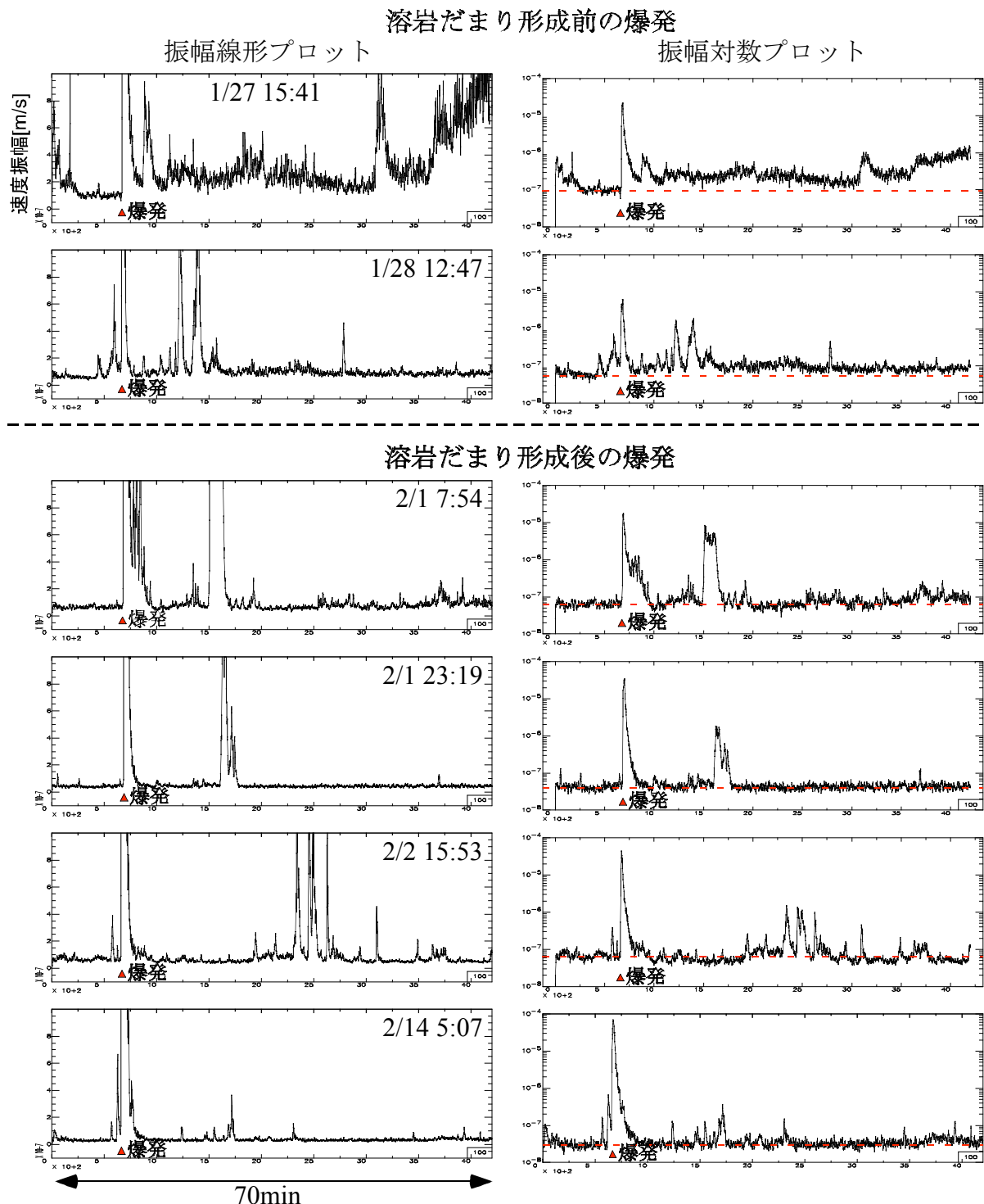


霧島山

○溶岩だまり形成前後での爆発地震の変化

新燃岳では1月27日より爆発的噴火を繰り返しているが、溶岩だまり形成の前後で爆発後の微動レベルに明瞭な違いが認められる。下図はHi-net都城北観測点上下動速度記録のエンベロップ（10秒ローパス）で、右列はわかりやすいように振幅を対数表示している。溶岩だまり形成前は爆発後に連続噴火へ移行していたのに対し、溶岩だまり形成後は爆発があってもまもなく爆発前の振動レベルに戻っている。この傾向は2月14日時点でも変わっていない（最下段）。



(青山) (謝辞) 資料作成には、防災科学技術研究所Hi-net都城北観測点の地震波データをダウンロードして使用した。

霧島山